

2023 年度秋季における刺網でのホンモロコ漁獲物調査

寺井章人

1. 目 的

ホンモロコの適切な資源管理には正確な資源評価が必要不可欠である。これまで RVPA による資源評価(別記載)に必要な漁獲物の年齢別体重や年齢構成の情報は主に冬季の沖曳網漁獲物のデータを用いていた。しかし 2022 年のホンモロコの漁法別漁獲量を見ると、沖曳網 20t、刺網 4t、その他 6t であり、秋季に主要な漁法として行われている刺網の漁獲物のデータも評価に反映させることで資源評価の精度が向上する可能性がある。そのため、本調査では刺網によるホンモロコの漁獲物についての分析を行った。

2. 方 法

調査は、2023 年 10 月 2 日～11 月 4 日に、琵琶湖北湖の沖合で刺網により漁獲されたホンモロコ 1,068 尾を対象に実施した。標本は、冷凍保存し解凍後に体長、体重等を計測した。年齢査定は鱗の輪紋の乱れを観察することで行った。結果を冬季の沖曳網漁獲物のものと比較し、刺網漁獲物のデータが RVPA による資源評価にどのように影響するか考察した。

3. 結 果

刺網漁獲物の年齢構成は、0 歳魚が 70.2%、1 歳魚が 29.6%、2 歳魚が 0.2%で、冬季の沖曳網漁獲物に比べ 1 歳以上の魚の割合が高かった(表)。これは刺網は目合いによる選択性が高く、1 歳以上の大型魚を選択的に漁獲しているものと推察される。

年齢別の漁獲物平均体重は刺網では 0 歳が 9.7g、1 歳が 13.4g、2 歳が 20.1g であり、沖曳網の 0 歳 6.8g、1 歳 13.6g、2 歳 18.3g、3 歳 21.6g に比べ、特に 0 歳魚で大きな差が見られた(図)。0 歳魚に対して刺網は沖曳網よりも成長の良好な個体を選択的に漁獲してい

るものと考えられる。

今回の結果から刺網による漁獲物の結果を RVPA による資源評価へ反映させると、1 歳以上の魚に対し漁獲圧が従来よりも高くなる一方で、0 歳魚では一尾あたり体重が大きいため漁獲尾数が減少し、漁獲圧は低下する方向に変動すると予想される。今後も継続して刺網による漁獲物調査を行い、さらに高精度な資源評価を目指すことで、適切な資源管理の実現に寄与する。

表 漁法別漁獲物の年齢構成

	刺網 (n=1,068)	沖曳網(n=1,933)
0歳	70.2%	88.0%
1歳	29.6%	10.3%
2歳	0.2%	1.4%
3歳	0.0%	0.3%

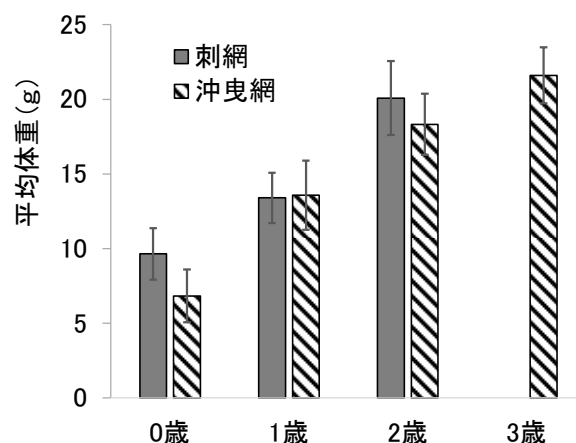


図 漁法別漁獲物の年齢別平均体重

※エラーバーは標準偏差

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。